

わたしの  
郷土

水俣市立水俣第一小学校 六年 小山孝子

水俣といえば、まず始めに思いつくのは水俣病と港祭りそれに湯ノ見温泉だと思います。では、水俣の欠点からお話ししましょう。とても悲しいことですけれど、おそろしい病氣、そう水俣病です。この病氣のために、今も苦しんでいる人は少なくありません。裁判、市民運動、チッソに対する補償請求と、あとわずかになった問題が、次々に解決されて、政府も熊本県も一心になってこの問題に取り組んでくれています。水俣市民も、やっと落ち着けるようになり、とても喜ばしいことだし、ただ現実から逃げなかった日本国民に感謝の気持ちでいっぱいだと思います。

次は水俣の主な行事を皆さんに紹介します。水俣では夏にお祭りが多いのですが、代表的なのが、港祭りです。華やかなパレードにのって、一生懸命に練習した踊りやおみこし、それに合奏や仮装行列など色々なものを見せ、私たち市民を楽しませてくれます。次は三社祭りといって、三つの神社のお祭りで、いつもは車が通ってなかなか渡れない道路なども歩行者天国になって、堂々と真ん中を通れます。珍しい物も売ってあり、沢山のお店が立ち並んでいます。そして、夏に毎週土曜日の夜にある土曜日ですが、三社祭りのように、お店が立ち並んでいる夜市です。お正月にあるのがたこ上げ大会で、小さい子供から大人までいっしょになり、手作りのたこを作って、色々カラフルなデザインで、目でも楽しませてくれるし、そんなときにはデザイン賞が貰えますし、ほかの賞もたくさんあり、とても楽しい行事です。

文化関係で一番目につくのが、昨年文化会館が建てられて、ウィーン少年合唱団など、今まで聞いたり見たりできなかったものが見られるのでとてもいいことだと思います。



# カメラ探訪

## 文学のふるさと

その17 金桁鉱泉



天草土産

— 上林 暁 —

「宇土半島の金桁鉱泉へ行く街道であった」という書き出しではじまる「天草土産」は、上林暁の五高生時代の哀歌を描いた、叙情詩ともいえる小品である。

主人公の森は、下宿屋の娘三重と二人で、天草への旅をするが、三角港に着くと船は欠航、二人は金桁への道を「お手手つないでを歌いながら」歩いていく。